

年齢に基づく身長・体重・肩巾・腰巾の年間増加量は、初潮の前2年頃より急速に増し、初潮の前1年間にそれぞれ最大増加期を示し、その後増加量は急激に減退して行く。

3) 軟部組織發育過程と初潮との関係—女性の容姿形成に關與する皮下脂肪層及び筋肉層の増加量は各個人の初潮直後より急速に上昇し初潮後1年間でそれぞれ最大増加期を示し、その後なお緩慢な増加を續ける。

4) 成長線發生時期と初潮との関係—思春期女子の約40%には、主として膝蓋部に成長線（皮下斷裂線）が發生する。發生は各個人の初潮を境として急速にその頻度を増し、初潮後1年間に成長線陽性者の40%（⁸³/₂₁₃例）が發生し、しかして初潮後4年以内に陽性者の全例數が發生を終る。

總括：思春期女子において、手の種子骨は各個人の初潮の前3年頃より發現しはじめ、初潮の前1年のところで100%の發現を終る。また各個人の初潮は骨年齢の14歳6カ月を中心とした短期間に發來する。一方、各個人の身體發育は初潮の前2年頃より急速に旺盛となり、初潮直前ですでに完成の域に殆んど達す。しかし女性の容姿形成に關與する皮下脂肪層および筋肉層の發育は各個人の初潮發來直後より急速に完成されてゆく。また成長線の發生も各個人の初潮を境として急速にその頻度を増し、初潮後の短期間に發生を終る。總じて思春期女子の成長・發育は各個人の生活年齢推移とは無關係に初潮を中心としてそれぞれ特有な過程を取り、初潮發來後5年で成長・發育は完了する。

104. 閉經後の子宮内膜及び卵巢の組織學的研究

（都立廣尾） 藤平治夫，*久田喜敏

子宮體癌の成り立ちを明らかにするため、第一段階として、その好發年齢である閉經後の非癌子宮内膜および卵巢について系統的な組織學的檢索を行った。材料として閉經後1年以上を経た解剖ないし手術によつてえられたもの212例、對照として閉經後の體癌28例を用いた。

I. 子宮内膜。1)子宮内膜をa)單純性萎縮、b)嚢胞を伴う萎縮内膜、c)退行性腺増殖、d)初期増殖相内膜、e)限局性および瀰漫性活動性腺増殖、f)異型腺増殖の6つに分類し、その頻度をみると、萎縮性内膜（a, b, c）は78.8%の大多數を占めているのは當然であるが、活動性腺増殖（e, f）が12.7%も見られることは、注目に値する。2)年齢別に分類すると萎縮性内膜特に嚢胞を伴ったものは年齢とともに増加し、一方活動性腺増殖の頻度は漸減するが、しかし60歳代においてもなお13.1%も認め

られる。70歳代になると著しく減少する。3)異型腺増殖は年齢に關係なく出現するが、特に體癌周圍粘膜にはその頻度が著しく高い。このことは體癌の組織發生上注目すべき所見である。筋腫および頸癌内膜における活動性腺増殖の頻度はやや高いが、對照と比較して大差はない。4)基底腺の筋層内異所的増殖の頻度は82%に認められ、年齢とともに漸減する傾向がある。體癌に特に多いということはない。5)内膜息肉は61例で、28.8%に認められる。年齢分布として特記すべき傾向はないが、70歳代に高率にある。占據部位は子宮體上部に多く、²/₃は腺組織が息肉の形成主體を占めるが、他は結合組織、筋纖維、血管より形成されている。癌性化されたものは1例もない。

II. 卵巢所見。1) 全例の¹/₃に卵胞を認める。年齢とともにその頻度の増加する傾向があるが、このうち、卵胞壁に活動性の顆粒膜細胞、夾膜細胞などの増加をみるものは7.4%であり、40～50歳代に多い。内膜増殖の頻度と比較し閉經後の内膜増殖の一部は卵巢外刺激によるものと想像される。その發現頻度は體癌、頸癌においては對照と較べ大差はないが、筋腫、腺筋症においてはやや高率である。2)間質細胞の肥大増殖は輕度のものも含めて、18.6%にある。50歳代に最も多い。しかし腫瘍化（Thecoma）したものは1例にすぎない。間質細胞の肥大増殖は體癌に著しく多い。

なお、内膜の螢光顯微鏡所見及び組織化學的所見を追加する。

105. 主として剖檢材料による子宮頸管内膜の年齢的變化について

（都立大久保病院） 大貫勇二郎

この問題について、昭和29年日本病理學會秋期總會において約100例の剖檢例の結果を報告したが、その後100例を追加検討したのでその結果を報告しようと思う。

材料は東大病理學教室及び浴風園の剖檢例の子宮約200例で、大體死因に關係無くつた。これをつぎのごとき年齢層、すなわち新生兒（死産兒も含む）から12歳迄55例、13歳から45歳迄58例、46歳から86歳迄76例、妊娠例11例（新生兒の對照例）の4群にわけて檢索した。このわけ方の意味は初經、閉經、妊娠などというホルモンの變化の來る時を境としたのであるが、實際には剖檢例は月經のあつたものも、殆んどが月經停止になっていることは充分考慮におかなければならないと思う。材料は全部フォルマリン固定で、新生兒から12歳迄のものは殆んど前後面で縦斷し、その兩面より切片を作り、その他の例は子宮の軸に直角な面で厚さ3～5mmに切り、出來